

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101844		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	めだかの学校シニア		
所在地	甲府市武田1丁目3-23		
自己評価作成日	令和 4年 10 月 8日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 11 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国的にもまれな児童養護施設との併設施設のため、子どもとの交流を行い相互への刺激となっている。甲府駅に近いということもあり、外に出かける行事を盛んに行っている。利用者の希望を聞いた少人数での個別外出や家庭的な雰囲気大切に利用者「その人」らしく過ごせるよう配慮している。職員研修も行い認知症の理解をしたプロ意識を持ち利用者へ接している。常に利用者の方向を見た介護ができるよう職員間のコミュニケーションを大切にしている。「家庭的」な雰囲気を大切にアットホームな施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の立地場所には駅や学校が近いため、利用者にはできるだけ散歩の機会を提供しています。特に学校からは、校庭に散歩に来られるよう話をいただいており、利用者は子どもと触れ合う場を楽しみにしています。事業所のアピール点にもありますが、グループホームのある上階が養護施設であることから、日常的に子どもと触れ合う場面があり、ひとつの共生社会として、子どもや高齢者が共に様々な刺激を受けながら生活されており、他ではみられない特殊な環境といえます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(めだかの学校シニア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を大切にして実践して取り組んでいる。 職員会議、朝礼、昼礼等で周知徹底をしている。 会議等でも伝えている。	理念については玄関前の目に留まる場所に掲示されています。また、日々の会議等で周知が図られています。法人の新規採用者については、各事業所の管理者より事業内容についての研修の場が持たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事にも積極的に参加している。 近隣住民との挨拶や会話を大切にして雪が降った時などは積極的に地域の雪かきなどを行い交流を深めている。 地域の方とのコミュニケーションを立て接している。 地域の役員も勤め地域との連携を意識している。	自治会とは行事等で交流が持たれています。また自治会に加入されており、管理者は、地区の民生児童委員の推薦委員としての役割を担っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設に見学に来てくれた際や、運営推進会議の時や地域行事の時に相談に乗れるようにしている。 実際に地域の方から相談に来る方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で意見・要望を聞きそこでの内容を職員会議などで話し、周知徹底してサービスの向上になるように努めている。 会議では意見が出やすい雰囲気大切にしている。	運営推進会議は2か月に1回実施されています。会議は情報交換・共有が中心で、今年度は運営に関する意見等出されていないとのことです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話等で相談できる関係づくりをしている。 クレーマーの家族がいた時は甲府市にも状況を伝え一緒に考え取り組んだ事例がある。 甲府市からお願いされて入所したケースもある。	市町村と連携してのイベントや研修は実施されていないが、過去に地域包括支援との連携で認知症に関する研修会を実施していました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに従い理解すると同時に安易に身体拘束をしないように徹底している。また会議や内部研修でも言い続け職員に周知してもらっている。 3ヶ月に1回、代表者で身体拘束廃止委員会を行っている。	事業所の現状として身体拘束は行われていません。ただ身体拘束をする場合のマニュアルは用意されており、会議の場での検討、家族の同意、書面に記載といった手続きが明文化されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等でも虐待についての勉強会を行い、職員間でも言い合える職場づくりをしている。職員の顔色ではなく利用者の顔色を見たケアを心掛け実践している。 虐待防止マニュアルを作り対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して学ぶようにしている。 以前制度を利用していた方がいたが、今はないので今後利用する方がいてもいいように学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とも話しやすい関係になるよう努めている。 電話連絡などもして入所後も安心して頂けるような配慮を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter) です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	実践状況	外部評価
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や口語でクレーム等頂いた時は迅速な対応を心がけている。 何でも話せる雰囲気作りをして話ができるようにしている。 そのために行事等にも参加してもらっている。	意見を取り入れる機会を設けてはいるが、家族が遠くに暮らしていたりと直に話を聞く場面は少ないようです。しかし過去には食事の内容や昔の映画が見たい、との要望があり、現在は自由メニューの日があったり、映画会(時代劇等)が開催されたりしています。	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で困ったことなどを聞き働きやすい環境づくりをしている。 職員にも丁寧に関わるようにしている。	職員の意見や要望は会議の中で把握して対応されています。また、雇用に関する事は管理者が受け付けて、内容によっては理事長に繋いで対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が気持ちよく働けるような配慮を行っている。能力ややる気に応じた昇給を行っている。 資格手当を作り職員のスキルアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回ある内部研修などを積極的に推進して行い、各職員の質の向上を目指している。また内部だけではなく外部の研修会にも積極的に参加する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつもの施設があるので内部での交流研修は積極的に行っている。数年前には他施設研修会も行った研修などで他施設の方と交流ある時には積極的にコミュニケーションを図り情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の家族からの聞き取りや入所後も要望等を聞き考慮したケアを心がけている。そのため日頃の面会時や行事の時に積極的にコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。 利用者本人にも気づきを大切にしながら何が必要で何を求めているかを考えるケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所後も要望等を聞き考慮したケアをしている。何かあれば電話等で情報交換をして、何でも話ができる関係づくりをしている。 出来る事や出来ない事も極力伝えて家族と共に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を常に心がけ、利用者にとって何が一番最適か？を常に考えてケアしている。思い込みによる決めつけた対応にならないように色々な角度から物事を見る癖をつけて判断するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりに心がけ、自分の親や大切な方が入所しても安心して預けられるような環境・関係づくりに努めている。 職員もアットホームな雰囲気ですべて一日一日を過ごせるように仕事をしています。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(めだかの学校シニア)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会以外に行事の時に家族にも来てもらい一緒に過ごすようにしてもらっている。家族と共に一緒に利用者をケアしていければ良いと考えている。 行事に参加してもらい関係性作りを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出の時や散歩の時などに馴染みの場所に行ったり、面会等で知り合いの方が来た時は長居しやすい空間作りを心掛け本院のためにも気軽にまた来てもらえるように配慮している。地元的美容院や知人のところに遊びに行ったり、長年勤めていた職場にも行くようにしている。	入居前から利用していた美容院や、入居前に努めていた会社への行き来は、職員が付き添うことで関係が継続されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気作りの中で、縁あって6名で生活しているので同じメンバーで何年も生活できるように温かい雰囲気を心掛けている。そのために皆で色々な行事などを取り組んでいる。孤立しそうな利用者には職員が関わり支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお茶を飲みに来たり、物を送ってくれる御家族の方が来おり互いが話し合える関係は継続している。逆にこちらから連絡するときがある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をしたり「その人らしく」過ごせるように心掛けている。自分の意思が表現できない方には、ご家族の意向を確認して対応している。 契約時にはご家族からの意向も聞いて利用者の支援に役立てる。	意思表示の困難な利用者については、対応した職員がその方の意思表示の内容を、携帯等のツールを活用して職員間で共有し、把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞き取りを行い生活歴を把握して職員にも周知徹底してもらいケアに当たっている。利用者本人を良く見て行動など気になる所があったら本人、家族、今まで関わっていた機関に確認している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握して、その中で本人らしく生活できるようなケアに努めている。それでいて居室に常に一人でいて孤立しないような配慮をしている。 画一的ケアにならないように、「個」での支援を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人・家族の希望を反映できるような計画にしている。面会時などに家族からも要望や気付いたことなど、その意見を大事にしてケアに当たっている。それが実践に移していけるような努力を続けたい。	介護計画は、各担当職員がアセスメントを経て介護計画案を作成し、ケアマネによる確認が行われます。その後に職員全体による共有と周知がなされ、支援に生かされています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を記入して、それを個々の介護計画にも反映したり、処遇会議での意見交換の材料をしている。職員間で気付いたことや統一事項は申し送りノートに記入してケアに活かせるようにしている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	実践状況	外部評価
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身内で不幸や祝い事があった場合など、職員が付き添い一緒に参加したりしてサービスのイメージを決めつけないような配慮を行っている。以前訪ねていたお店に職員付き添いで訪問したり入所前に行っていた美容院に行くなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携を取ったり、地域住民との関わりで地域に溶け込みながら快適かつ安心・安全な生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人内にクリニックがある旨を伝え、そこに病院を移しても構わない利用者は紹介状をもらい健康管理のフォローを行っている。 病院を変わずそのままの方も当然おり家族との連携の中で受診等を行い健康管理を行っている。	入居後に、かかりつけ医の継続について、または法人のクリニックの活用についての説明がなされ、本人または家族に選択して頂いています。現在は家族の負担の背景から、法人のクリニックを利用されている方が多いとのこと。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が特変時などはリーダー→管理者に伝わり、その中で家族と相談をして受診や対応を決めるようにしている。 また法人内の看護士とも連携してケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院との連携を密に行い、退院の許可がおりた時にはカンファレンスを行い速やかに対応するようにしている。また入院中にADL低下することもあるので、介護計画も変更しながら医師・看護師ばかりではなくハビリの職員からも情報を聞き対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院前に家族に伝えると同時に当法人にあるクリニックや特別養護老人ホームなどへの入所変更は可能な旨は説明し広い選択肢の中で方向性を決めるようにしている。 本人、家族の意向を大切に支援を行っている。	入居の際に、重度化された場合の事業所の方針について説明が行われています。家族からは看取りの希望は出ていないが、医療行為の必要のない方の対応については、家族の意向を大切に支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低年に1回は内部で救急法の勉強会を行い職員の技術の向上をしている。それ以外にも外部の研修で学ぶようにしている。 いざという時に落ち着いて対応するように話もするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。 年に数回避難訓練を行い利用者はもちろん職員の訓練をしている。通報訓練も行うようにしている。 地域の防災訓練にも参加し地域の方にも施設の存在を意識してもらっている。	事業所はハザードマップの指定区域ではないが、街中なので火災が心配されるとのことです。避難訓練は通常の職員体制で実施していますが、通報訓練の際は職員会議の日に実施しています。地域からは事業所に、災害時における高齢者の避難要請が上がっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳」をモットーに一人ひとりを大切にして利用者のケアをしている。言葉遣いに気をつけて甲州弁乱用は止めて敬語と甲州弁を組み合わせた声掛けを実践している。 トイレリ声掛けなどにも配慮したケアを行っている。	日常的にはトイレの扉の開閉には注意を払っています。甲州弁の乱用に気をつけて、話す場面に留意して、敬語とバランスよく織り交ぜた声掛けを実践しています。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(めだかの学校シニア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決められた日課だけでなく、利用者の顔色を見たケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。また衣服にしても利用者の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課だけでなく、利用者の希望に合わせたケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。「生活の場」を意識した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者だと家族が持ってきてくれた化粧品や衣服でオシャレな身だしなみを行っている。男性の場合は整髪・髭剃り支援を行い身だしなみに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの役割を大切に一回の食事で多くの利用者が関わられるような工夫をしている。食事が楽しく、安全に利用者にとって生き甲斐になるよう工夫している。食が生きるための活力なので大切にしている。	食事は食材を購入して、できるだけ利用者が関わりながら調理しています。週に2日の夕食は自由メニューの日としており、利用者の希望された食事が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や症状に合わせて食事やおやつを提供している。栄養摂取が十分でない利用者の方には高カロリーな捕食を心がけて対応している。また場面に依りて水分チェック表を付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。車椅子の方でも洗面所等を使い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔や回数、量も人によって違うので状態を把握して時間や状態を見て誘導してオムツではなくトイレで排泄ができるよう支援している。トイレでの排泄が難しい利用者もこまめなパット確認を意識して行っている。	排泄について現在は、拒否をする方より行きたがる方がいて、セーブするための声掛けに配慮されています。排泄は一人ひとりの排泄チェック表より把握して適切な声掛けに努めています。排泄に関連して消費される介護用品については、利用者負担を考慮してできるだけ消費を抑えるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬での対応もしているが、極力自然排泄が出来るように運動や牛乳を飲んだり工夫をしている。またそれを記録に残し連続性のケアになるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者にとって大切なのでその日の体調を見ながら、束縛なく入浴が出来るようにしている。時間等も本人のニーズに出来る限り答えられるようにしている。	入浴日は週に3回設定して、個対応での支援が行われています。また、入浴を拒否される方に対しては、声掛けの方法、時間、介助者を変えるなどして対応しています。介助については、同性介助としたいが、当日の勤務により異性介助となってしまう日があるとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、利用者の方がぐっすり休まれるように対応している。人によっては日中に少し仮眠を取る利用者もいる。ぐっすり眠れるように日中の過ごし方や、電気・温度などにも配慮している。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(めだかの学校シニア)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては危険なので用途などをケース記録の後ろに添付して皆で理解して行っている。またケアノートと言う医務の申し送りノートを作り皆で情報共有して取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活ができるよう支援している。一人ひとりの出来ることを大事にして残存機能を生かしながら取り組んでいる。草取りや料理、ピアノ・絵画、日記など。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出や全員で外に出かけたりなどの外的刺激を大事にしている。立地上、外に出やすい環境なので有効活用している。外的刺激を意識した支援を行うようにしている。	個別外出としては花の好きな方はフラワーパーク、故人のお墓参りに行ったりなどがあります。また全体の外出ではショッピングセンターへの買い物ツアーがあり、お小遣いで嗜好品の購入がなされています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時に支払ったりとお金を持つ楽しみ、使う喜びを大事に出来るようにしている。家族からの要望もあり数人の利用者はお金も所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話をしたり年賀状を書いて送るようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場を意識して家庭的な雰囲気になるようにしている。利用者が書いた作品などを掲示して雰囲気作りをしている。利用者が混乱しないように寄り添った支援を心掛けている。	利用者の居場所として、リビングの他に玄関の前にソファを設置しています。共用空間には利用者の作品が掲示されており、心を和ませる配慮がなされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過去には自分の居室に他の利用者呼び話をしている利用者もいた。玄関前にソファを置いたりして限られた中ではあるが「空間」作りをしている。場の提供を出来る限り心掛けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室は利用者本人、家族が自由に使い、家庭的な雰囲気が出ています。男性の利用者やキーパーソンの家族が男性の場合は殺風景な居室もある。工夫して家庭らしさを意識している。	入居前より使い慣れた衣装ケースやテレビ、レンジを継続して使われる利用者がいます。居室には本人の書や家族の写真が飾られて、生活感が感じられる雰囲気を大切にしています。配偶者の位牌を持ち込まれている利用者がいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロア環境なので生活しやすくはなっている。段差や危ないと思ったところは極力改善して対応している。利用者が安心・安全に生活できるように考え支援している。			